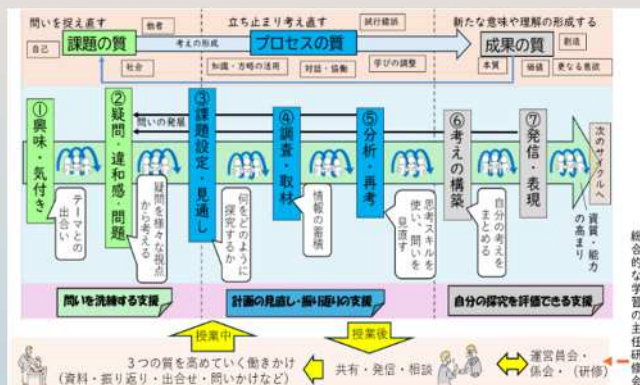


研究課では今年度、4つの研究テーマを設けて研究実践を進めます。いずれも学校で、教室で見出された課題の解決を図ろうとするものです。折々、この「研究課発!」や、説明動画「研究課3min.」で進捗をお知らせいたします。また、教育研究発表会の内容をよりタイムリーなものへと充実させます(下部予告参照)。奮ってご参加ください。

### 総合的な学習の時間の充実と校内組織の運用 (中学校)

岩本信吾 研究員

単元を7つのステップから成ると捉えて見通しをもち、「課題の質」「(分析・考えの形成など)プロセスの質」「成果の質」の向上を図る。また、こうした取組を支える教職員の係の役割や会議の働きを明確にし、一人一人の教員や、教員組織としての指導力をより確かなものにした。



### 教職員のエージェンシーを発揮させる研修の在り方 (小・中学校)

華井崇博 研究員

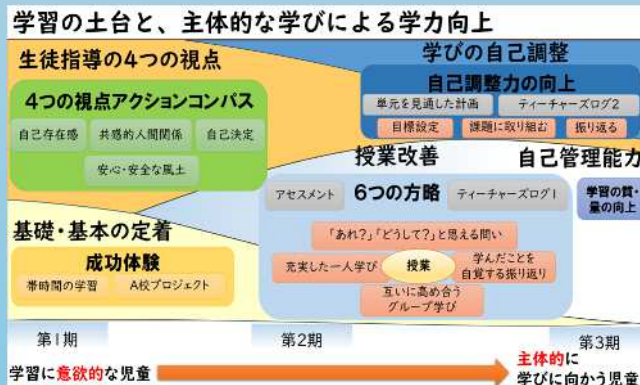
教職員が自らの実践と指針を関連付け、自身や所属組織の置かれた状況、他者との関係の中で判断・実践し、その行為や意味を更新していくことが教職員の力量の深まりを導くと考える。センターでのキャリアアップ研修と探究 Core 研修、小中各校の校内研修での伴走を行い、京都市の現状を踏まえ効果的な教職員研修の在り方を見出したい。



### 学習の土台と、主体的な学びによる学力向上 (小学校)

田尻明宏 研究員

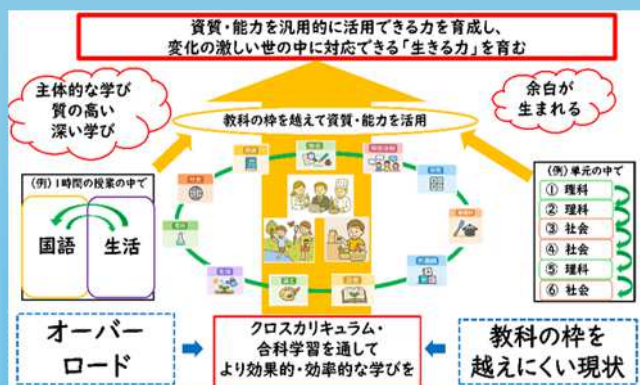
生徒指導の4つの視点を働かせた授業により児童が学びに向かう土台を強化する。また、個別の知識の習得から、問いを軸としてそれを活用できるように授業を整えることで、児童の学力が向上すると考える。その中で児童の自己管理能力を育み、次の単元や次の学年でのより主体的な学びに導きたい。



### クロス・合科による深い学びの汎用化 (小学校)

洲崎陽大 研究員

クロスカリキュラムや合科学習により、ある教科で育まれた資質・能力が他の教科等で発揮される機会を設けることでより深い学びがもたらされ、それはやがて社会生活の中で発揮されると考える。子どもたちが必要感をもって学びをつなげていく単元をデザインすることで、各校が目指す子どもの育成を支援したい。



※上の各研究テーマは仮題です。

第28回 教育研究発表会 令和9年2月19日(金)午後 京都市総合教育センター永松ホールほか

○〔研究課〕研究実践報告 ほか

○講演「これからの学校教育について」(仮題) 京都大学教授・京都市教育委員会委員 石井英真 氏